



地震のとき、地下街は安全なの

地上よりは安全

地下では、地震のゆれが地上よりも、小さいのがふつうです。地震に対する建物の構造も、じゅうぶんに、考えられているので、地震でつぶれたり、上の階がめりこんでくることは、まず考えられません。

地震のゆれ、ということだけを考えると、地上よりは安全だといえます。しかし、兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）のときは、地下街もかなりこわれました。大きな地震が起こったときは、必ずしも安全ではありません。

火事や停電になってもあわてない

地下街では、建物がひび割れして水が出たり、ガスもれや、火事が起こったときには、たいへん危険になります。

地下にいるという不安から、地震が起こると、たくさんの人が、一気に出入り口におしよせて、大混乱になることがあります。

地下街で停電になっても、非常灯が、つくようになっています。停電のときは、落ち着いて、警備員などの指示にしたがい、あわてて出口に、おしよせないようにします。

火事が起こったときも、あわてずにみんなで協力して、近くの消火器で、すばやく火を消すようにします。（監修・国司 真）

